

第5分科会「里山と観光」

現地見学・交流会「ワクワクする里やまづくり」

日 時：2006年4月15日（日）9：30～16：30

場 所：南房総市平久里下 茅葺の家「ろくすけ」
*茅葺の家「ろくすけ」は、NPO法人千葉自然学校
が借り受け、保存に取り組んでいる里山の農家。

参加者：23名 その他に和田町「くすの木」のみなさん数名



趣 旨

分科会のテーマは、「ワクワクする里づくり」。五感を働かせ、空間や地形を読み取り、そして、五感マップを作成してみる。そこから、観光と結びつく拠点を考え、周辺とのつながりを考え、ゴミについても考える…。何を行ったら楽しいことができるか一緒になって考えてみる。六感、七感で里づくりに繋がるプロセスを探る。

里の点検地図（五感マップ）づくりのポイント

1. 五感で感じたことを書き込む
 - ・視覚 (Landscape)：眺めの良い風景、展望ポイント、負の風景
 - ・聴覚 (Soundscape)：風の声、木々の音、車の音、鳥の音など
 - ・触覚 (Bodyscape)：道の状態、橋など、変化の有無
 - ・嗅覚 (Smellscape)：草の匂い、木々の匂い、土の匂い、風の匂い、季節変化に伴う花の匂い
 - ・味覚 (Tastescape)：地域の特産品、食べる場所、もてなし
2. デジカメ、スケッチなどの活用
3. 幅広い視点で（地域の人たち、専門家の助言、指導など）
4. 子どもの視線、お年寄りの視線でしてみる
5. 里の歴史、文化、自然、産業、人口、所帯数も意識する
6. 里の周辺との関係も調べる
7. お年寄りから昔話や言い伝えを聞く



内 容

午前は、7～8人の小グループに別れ地元の人の案内で里山や集落をウォッチング。茅葺の家「ろくすけ」で合流し、午後からはグループ単位でマップづくりと里づくりをテーマにグループディスカッションと、まとめの発表を全体で行った。お昼は自然の宿「くすの木」のスタッフに「ろくすけ」まで出張してもらい、山野草を活かした里山の恵み料理を試食した。

各グループの主なテーマ

- Aコース：里山の景観
- Bコース：里山と天神郷
- Cコース：里山の古道めぐりと石仏



結果

平久里の里山景観は千葉県一・歴史ロマンの溢れる地・茅葺の家は地域の財産・里山の恵みを食卓に・語り継ぐ語り部たち。桃源郷に観光客をどのように迎えたらいのだろうか？



1. 平久里の里山の道を自然の景色や部落の家並みを見ながらゆっくりと、土地の人の案内を聞きながら回った。道端には可憐な野草が花を咲かせ、野蒜が土手に群生する。どこにもランドタワー的存在の伊予ヶ岳が見え目を楽しませてくれる。美しい生垣や屋敷林に囲まれた家があり、庭先はよく手入れされた花壇がある。平久里の盆地の景観は人を和ませ、くつろがせてくれる。桃源郷と呼ばれるに相応しい地であるというのが参加した人の共通認識であった。（千葉県一という評価もあった：中央博物館中村氏）
2. 平久里の景観に曳かれて外からの人が住み着き始めている。外人も家を建てている。
3. 地域のシンボルとなる樹木や林があり、背後に小高い山が控え、前に川が流れ、田畑が広がる天神郷は、風水に適った地で、村で一番恵まれた地。こういう場所に里山に住む昔の人は村の守り神を祀る神社を造った。
4. 平久里の里山はゴミが少なくきれいだ。その背景に盆道（一年に一度村中でゴミ拾いを行う行事）が繰り返行われてきたことや、竹林などの管理の考え方（食べる、夏前に手入れするなど）が利に適ったものであるからであろう。
5. 今回スタートポイントにした田んぼの真ん中のお借り家は、元々神社の地であったところということが今回判った。
6. この地は古い時代から人が住み始めており、古代の遺跡（京田遺跡）もある。奈良時代から平群軍団の地として知られ、ここから九州の防人としてかの地に出かけていた。又、それより古い時代（神話の時代）では四国から来て房総を開拓した忌部一族に縁深い地でもある。
7. 話し合うことで共通認識が生まれたので、次にどのようなことに繋げていけるのかが課題となった。そのためには、目標を設定する必要がある。萱葺きの修復などのその一つか？
8. 平久里は、景観、歴史、農村の文化（村の辻に昔からの伝統的な文化が顔を出す）が残る地で、多様性に富んだ地だ。多様性をつなげると、力になる。大山千枚田に並ぶ魅力がある。そのためには拠点が必要だろう。
9. 平久里を桃源郷として磨きをかけていくための課題として、里山の手入れ（これには地元の人々の理解が必要）、牛糞の処理の問題、萱葺き家の保存などがある。萱葺きの課題については、職人が地元になくなった（和田に居られる？）、材料が地元で調達できなくなりコストがかさむ問題などがある。
10. 里山の河川の工事が十数年前に行われたが、当時の町の役場の担当者が今回の分科会に参加しておられ、コンクリートに固めた護岸づくりや鯉を川に放流するなどは、他の方法でやるべきであったと反省しておられた。

まとめ

平群に他所からの人を招くためには、拠点となる場が必要であろう。茅葺の家は最適地。茅葺屋根の修復や周辺の整備などを行うなど、具体的活動として継続していくことの重要性が提議され、その方向性を確認した。